

はじめに

国土交通省では、平成 15（2003）年に公表した美しい国づくり政策大綱の中で、公共事業における「美しさの内部目的化」を宣言しました。また、景観法の施行（平成 16 年）によって地方自治体における景観形成の取り組みがこれまでに増して広がりを見せています。こうした状況から、公共事業の実施において「よい景観」を生み出すことへの必要性と社会的要請が以前にも増して高まっています。

公共事業における景観形成を図る上での具体的な取り組みとして、国土交通省では、景観検討の手続きや枠組みを示す「国土交通省所管公共事業における景観評価の基本方針（案）」を策定し、平成 16 年から直轄の 44 事業を対象として試行しました。平成 19 年にはこれを「国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案）」として改定し、全ての直轄公共事業を対象に運用を始めました。また、平成 18 年度に道路や河川など各事業分野の景観形成ガイドラインが出揃い、景観を考える際の技術的指針を示しました。

このように公共事業における景観形成について、体制や手続き、技術指針の整備を進めていますが、土木分野では景観・デザインに配慮した設計を行う際に参考となるような「よい事例」を集めて解説した資料集がほとんどありません。

公共事業の現場で景観形成の方向性を議論し、具体的な設計に反映させていくには、これまでどのような事例がよい景観として評価されてきたのかを予備知識として知っておく必要があります。また、折りに触れて先人のすぐれた計画・設計の考え方を参照することは、全ての技術者にとって重要なことです。しかし、現状では残念ながらそれができる環境が整っているとはいえません。

そうした状況を踏まえ、土木構造物の規範的デザイン事例を選定し、公共事業における「よい景観」の方向性を示すとともに、景観・デザインに配慮した計画・設計の際に参考となる技術的情報を整理したのが本資料です。

本資料が、公共事業の計画・設計に携わる行政担当者やコンサルタント等の多くの方々に参照・活用され、我が国の公共空間において良好な景観形成を進める上での一助となれば幸いです。

刊行によせて

土木のデザインを志す者にとって、最良の教師は実在するものであり、そのものが存在する現実の空間である。美しい橋、気持ちのよい水辺、それらに感動することによって、自分もデザインをしてみたいという情熱が生まれる。

この感動に続く学習は専門教育によってもよいし、独学であってもよい。しかし学習過程にあって少なくとも2つの困難が生ずる。その1は、経験不足の若い時代にあっては、何がよいもの、よい空間であるかの判断に自信が持てないことである。その2は、設計にあってはものの具体的な形、寸法を決める必要があるのだが、その定め方に自信が持てないことである。

専門教育の場では講義と設計演習を通じて、教師が様々な示唆を与えてくれるであろう。しかし、その教師として万能ではない。橋には強くとも水辺には弱いかも知れない。道路・街路、橋、公園、河川、海岸・港湾等と多岐にわたる土木全般に通じた教材が欲しくなる。これはむしろ、デザインを教える側の教師の偽らざる心境であろう。

独学で学ぼうとする者には状況は一層深刻である。何か手掛りが欲しい、出来れば教材が。どのような橋がよい橋で、その形（プロポーシオン）、寸法はどうなっているかを教えてくれる教材が。

今回の「景観デザイン規範事例集」は以上に述べた若い技術者と技術者の卵

の要請に応えようとする初めての試みである。土木の各専門分野において実際にデザインを実践してきた経験豊富な技術者が集まり、編集、執筆、図版製作、写真撮影に当たった。各専門分野でデザインに定評のある事例を取り上げ、何故よいのかを可能な限り丁寧に解説した。

土木の隣接分野である建築では、すでに昭和17（1942）年に「建築設計資料集成」が出版され、長らく建築デザインを学ぼうとする若い建築家の座右の書として使われてきた。本事例集は、この建築の先例に習おうとするものだと言ってよい。但し、注意しなければならないのは、単独で完結する建築とは違って、土木は複数の構造物や施設が連繋して一つのシステムとして機能している点であり、立地と相互の配置が極めて重要となるという点である。又、河川やダムは言うに及ばず、自己完結した形と思われる橋梁においてすら、大地の形—地形との関係がデザインにおいて決定的な意味を持つという点である。

従って本事例集では、施設や構造物の形、寸法にもまして、それらの地形上の立地と地形との取り合いに記述のスペースをさいている。

先にも述べたように、本事例集は土木の分野における初めての試みである。執筆、編集に携わった諸兄の労を多とするとともに、本書が若き技術者のデザイン実践や設計演習の友なることを希っている。

平成20年1月吉日

土木学会 景観・デザイン委員会
土木デザイン集成編集小委員会
委員長 篠原 修

目次

はじめに	i
刊行によせて	iii
規範事例集の作成方法	vii

【河川編】

河川分野における候補事例の収集	河川編 - 1
河川分野規範事例候補リスト	河川編 - 2
河川分野における規範事例選定の考え方	河川編 - 12

規範事例集【河川編】

事例位置図	河川編 - 001
1. 富士川水系・信玄堤	河川編 - 002
2. 巴川・香嵐渓	河川編 - 008
3. 大谿川・城崎温泉街地先護岸	河川編 - 010
4. 夙川・河川敷緑地	河川編 - 014
5. 鴨川・京都市街地河道	河川編 - 018
6. 一の坂川・石積護岸	河川編 - 022
7. 太田川・基町護岸	河川編 - 026
8. 八東川・多自然型川づくり	河川編 - 030
9. 津和野川・景観整備	河川編 - 034
10. 阿武隈川・渡利地区水辺空間整備	河川編 - 038
11. 子吉川・二十六木地区多自然型川づくり	河川編 - 042
12. 和泉川・東山の水辺と関ヶ原の水辺	河川編 - 046
13. 木曾川・船頭平閘門	河川編 - 050
14. 荒川・岩淵水門	河川編 - 054
15. 旧北上川分流施設群（脇谷水門・鴛波水門）	河川編 - 058

16. 嘉瀬川・石井樋	河川編 - 062
17. 筑後川・山田堰	河川編 - 066
18. 隅田川・隅田公園	河川編 - 070
19. 牛伏川・フランス式階段工	河川編 - 074
20. 木曾川水系・羽根谷砂防第一堰堤	河川編 - 078
21. 雲原砂防施設群	河川編 - 080
22. 布引ダム（五本松堰堤）	河川編 - 084
23. 立ヶ畑ダム（烏原堰堤）	河川編 - 088
24. 小牧ダム	河川編 - 092
25. 白水ダム	河川編 - 096
26. 水門の開閉装置の変化とデザイン	河川編 - 100
27. 護岸の端部デザイン	河川編 - 104
28. 伝統治水に学ぶしなやかなデザイン	河川編 - 108
29. 流れのデザイン	河川編 - 112
引用・参考資料リスト	河川編 - 114
図版出典リスト	河川編 - 119

【海岸編】

海岸分野における候補事例の収集	海岸編 - 1
海岸分野規範事例候補リスト	海岸編 - 1
海岸分野における規範事例選定の考え方	海岸編 - 5

規範事例集【海岸編】

事例位置図	海岸編 - 001
1. 虹の松原	海岸編 - 002
2. 上人ヶ浜	海岸編 - 006
3. 包ヶ浦	海岸編 - 008
4. 白砂青松の役割	海岸編 - 012
5. 海岸工学と砂浜のデザイン	海岸編 - 014
6. 海岸の空間構成とアースデザイン	海岸編 - 016
7. 住民参加による海岸づくりの新たな動き	海岸編 - 018
引用・参考資料リスト	海岸編 - 020
図版出典リスト	海岸編 - 022

【港湾編】

港湾分野における候補事例の収集	港湾編 - 1
港湾分野規範事例候補リスト	港湾編 - 1
港湾分野における規範事例選定の考え方	港湾編 - 7

規範事例集【港湾編】

事例位置図	港湾編 - 001
1. 鞆の浦	港湾編 - 002
2. 三角西港	港湾編 - 006
3. 横浜港旧港地区	港湾編 - 010
4. 山下公園	港湾編 - 014
5. 自動車道	港湾編 - 018
6. 鹿児島港本港区港湾緑地	港湾編 - 022
7. 門司港レトロ	港湾編 - 026
8. 港の魅力と景観整備	港湾編 - 030
9. 港とまちの眺望	港湾編 - 034
10. 居心地の良い水域の形成	港湾編 - 038
11. 海辺のプロムナードのデザイン	港湾編 - 040
12. 潮入のデザイン	港湾編 - 044
引用・参考資料リスト	港湾編 - 046
図版出典リスト	港湾編 - 048

規範事例集の作成方法

(1) 規範事例集について

規範事例集とは、公共事業における景観デザインの規範となる事例を集めたものである。規範事例は、優れたデザインあるいはスタンダードなデザインとして既に評価の定まっているもの、及び下記委員会での議論を経て規範たりうるとされた現存するの構造物とした。対象分野は河川、海岸・港湾、道路・街路・橋梁・公園である。

(2) 検討体制

本事例集の検討は、土木学会景観・デザイン委員会の中に「土木デザイン集成編集小委員会」を設けて実施した。

(3) 作成手順

本事例集の検討は次の手順で行った。

- ①文献・資料より候補になると思われる事例を収集し、事例リストを作成した。
- ②各部会において、分野ごとの事業の特徴に配慮しながら事例リストを整理する視点を整理し、10事例程度を目処に規範事例集に掲載する事例を選定した。
- ③掲載する事例について、事業の概要や設計の考え方、図面・写真等を入手するため資料収集及び現地調査等を行った。
- ④収集した資料をもとに事例集素案を作成した。
- ⑤各部会及び親委員会での意見に基づき必要な加筆修正、資料の追加等を行い、規範事例集として編集した。

土木デザイン集成編集小委員会

■親委員会

委員長	篠原 修	政策研究大学院大学教授
委員	島谷幸宏	九州大学大学院教授
委員	齋藤 潮	東京工業大学大学院教授
委員	田村幸久	大日本コンサルタント株式会社専務取締役
委員	中井 祐	東京大学大学院准教授
委員	天野光一	日本大学教授
委員	北河次郎	文化庁文化財部参事官付文化財調査官
委員	兼子和彦	株式会社地域開発研究所取締役

■部会

●河川部会

部会長	島谷幸宏	前掲
委員	吉村伸一	株式会社吉村伸一流域計画室代表取締役
委員	伊納 浩	株式会社地域開発研究所主任研究員

●海岸・港湾部会

部会長	齋藤 潮	前掲
委員	上島顕司	国土技術政策総合研究所空港研究部空港ターミナル研究室長

●道路・橋梁部会

部会長	田村幸久	前掲
委員	佐々木葉	早稲田大学教授
委員	松崎 喬	大日本コンサルタント株式会社上席技師

●街路・公園部会

部会長	中井 祐	前掲
委員	小野良平	東京大学大学院准教授
委員	小野寺康	有限会社小野寺康都市設計事務所代表

※委員所属は2008年1月現在